



東中だより

夢を追え、自らを高めよ

—学べ・磨け・輝け— 12月号

さいたま市立東浦和中学校

〒336-0932 さいたま市緑区中尾 1207-1

☎ 048-873-4141

令和元年11月29日発行

読書のすすめ

校長 石川 賢一

朝晩、本当に寒くなりました。テレビニュースでは、秋の終わりを伝えています。先日11月15日（金）にチャレンジガーデンの一角に薔薇を10株植えました。これは、Jリーグ浦和レッズのホームタウン普及部の事業の一つで、品種改良により特別につくられた「レッズローズ」という名前の真っ赤な薔薇だそうです。紹介札も立てました。春から秋まで咲くそうです。春の開花を楽しみに待ちたいと思います。

さて本校では、一日のスタートに「10分間の朝読書」を行っています。気持ちと体を落ち着けてスタートするための大切な取組に、どのクラスも、よく取り組んでいます。

「読書」は、様々なところで、その効果が報告されています。

○語彙力がアップし、想像力・思考力が豊かになる

・頭の中に本の世界が生まれ、登場人物の思いや行動を考え、言葉を知り、その使い方を
知ることで、コミュニケーション力もアップします。

○知識が増え、視野が広がる

・様々な分野での先人が残した言葉や情報を得ることで、自分以外の他者の考え方に触れ、
別な視点からのアプローチを考えつくようになります。

○ストレスをやわらげる

・ストレス解消法は、音楽を聴いたり、好きな所に行ったり、好きなもの食べたりと、様
々な方法があると思いますが、読書は、そのどれよりも効果があると、科学的に実証さ
れているそうです。

—— 本は、別世界（時に非現実的な）へ連れて行ってくれる。

本が一番のおもしろさは、その作品世界に入る。それに尽きると思う。——

そんな風に読書のおもしろさを表現した作家さんもいました。

「本が一番のおもしろさは、その作品世界に入る、それに尽きると思う」確かにそうですね。頭の中にその世界が広がり、あたかも自分がその場にいるような気持ちにさせられます。ある大学での学生論文について語られているのを耳にしました。『学生への調査で、毎日読書をする学生と、スマホは常にチェックするがほとんど読書をしない学生では、論文に大きな違いがでてくる。前者は、文章の組み立てがしっかりとっていて論理的でわかりやすい。後者は、文章の接続がスムーズでなく、継ぎはぎのような文脈でわかりにくい』という話でした。別のある研究では、『テレビやコンピューターゲームなど、作られた映像や物語を受動的にこなすより、文章の内容からイメージをする時に、脳のさまざまな領域が起動し、その影響で新たな神経経路も構築される』ということがわかっているそうです。

学校では、11月が読書月間とされ、給食でも「図書とのコラボ給食」を実施しました。読書への入口としても、とても素敵な企画でした。月末からは冬休み。画面ばかりを観ずに、ページを開いてみてください。きっと、新しい世界に会えるはずです。



【「コラボ給食」を紹介；2Fほほえみコーナーにある
給食と図書のコーナー】